

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105149
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム かすが
所在地	鹿児島県鹿児島市春日町8番25号 (電話) 099-248-1058
自己評価作成日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念「あなたの歩んできたこれまでの道のりを尊重し、あなたの出来ることを大切にありのままのあなたと共に歩いていきます」この理念を朝礼の三唱と共に毎朝の朝礼、申し送りや毎月の勉強会でケアの振り返りとして共通解釈し、またご入居者がご入居者らしく居られる様ご家族とのご面談やご相談には職員担当を中心に取り組み、理解、共有していくことで当ホームにおけるケアの考え方や方向性、職員一人、一人が一つの目標を持って支援に進んでいけるものと考えています。また、これまでも地域との交流を手探りでありましたが大切に運営してきましたが、コロナ感染症が2019年よりおさまらず他機関との連携を図りながらですが、地域の皆様にこれからも還元できるホーム作りを目指していきたいと思っています。グループホームの方針 パーソンドケアは毎日の業務に振り返りを持ってグループホームならではの入居者様ご自分らしくいられる環境作りを念頭にサポートしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは各ユニットのリーダーを中心に勉強会や話し合いをするなど、その人にあったケアを全員で共有し、統一したケアを実践している。また、リーダー同士で話し合い総括リーダーが、管理者に報告し、管理者は全体を把握し、必要時は個別面談にも対応している。役割分担も明確化している。
- ・家庭的な雰囲気の中で職員は家族の一員として、入居者と熱心に接し、感じたことを意見交感し共通解釈してケアに関わっている。職員間も仲がよくコミュニケーションも良好である。
- ・コロナ禍で外出制限の中、定期的な医療機関受診後に、紫陽花ドライブやコスモドライブ支援し、ホーム内では暑い日にはノンアルコール、リクエストのシェークで楽しみを持てる支援をしている。
- ・毎月「かすがだより」で日常の様子を紹介した写真と担当職員が個別の写真や生活状況を記載し報告している。家族は安心して繋がっている。
- ・事業所では入居者ができるところを提案し、入居者が決め、菜園にみかんの木を植えたり四季の花を植えている。夏野菜の収穫も楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	1階受付に提示している。毎朝朝礼終了後に参加者全員で理念の唱和を行い、又毎日の介護現場でも共有を図っている。	理念は1階受付と事務室、各フロアに掲示している。朝礼で理念を唱和し、各自が理念に基づく実践の振り返りを行い、毎日の介護現場で共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており町内清掃活動や消防団による避難訓練に積極的に参加している。	町内会に加入し、昨年度は班長の役割や清掃活動・避難訓練に積極的に参加した。コロナ禍でその他行事は自粛中である。地域から野菜や果物の差し入れがある。日常的に散歩時の挨拶程度の交流はある。地域からの相談には対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ホームの活動を通して町内会や近隣との交流も地域に浸透してきており、認知症に対する理解や配慮を以前より頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・町内会・地域の方達も参加を頂き取り組みや現状を報告し話し合いを行い、同時に意見や助言等頂きながらサービス向上に活かしている。コロナ対策にて今年度は紙媒体での報告。	定期的に会議は職員のみで開催し、ホームの活動状況として、入居者状況・インシデントやアクシデント・行事報告・感染症予防について議事録を他のメンバーには郵送報告している。助言や意見・情報をもらい施設案内や介護相談などに活かせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>各種申請や何かあれば市役所に出向き相談や情報収集を行い協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは窓口に出向き、相談や情報収集したり、電話で指導受けたり感染症予防の件で連携を図っている。介護相談員も受け入れ、協力関係にある。市主催のリモート研修に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内勉強会や具体的状況があればその都度のカンファレンスを通して正しく理解する事に努め「原則身体拘束は行わない。」事を基本として定期的に話し合いを行っている。</p>	<p>年1回法人全体研修会が有り、事業所でも年4回身体拘束廃止委員会でマニュアルを基に研修している。毎月グループワーク等で入居者の具体例を挙げて意見交換している。言葉遣い等振り返り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はしていないが、利用者はニュースや新聞で感染症について理解でき、外に出なくなっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修やホーム内勉強会、そして定期的なカンファレンスで学ぶ機会を持ち、又ホーム内に文書化した物を掲示する等、常に意識しながら毎日のケアを虐待のないケアを目指して行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会や具体的な状況では担当者が専門機関に相談して連携を図りながら活用できるよう支援し、又それを他職員に周知して理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・解約時には事前に面談を行い説明・聞き取り、又改定の際は文書にて説明を行いながら十分な理解と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際にご意見・要望等について伺う機会がありスタッフ全員で耳を傾けるようにしている。又間接的にも玄関に意見箱を設置する事で話しにくい内容にも対応出来るようにしている。	利用者からは日頃の会話の中で、家族からは窓越し面会や庭越し面会時に日頃の状況を報告し意見を聞いたり、月1回電話で現状報告し意見や要望を聞く機会を設けている。毎月、だよりで写真や行事予定等のお知らせ、担当者から生活状況を手書きし郵送している。意見や要望は運営に反映させるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族からの意見・要望は職員会議や毎日の申し送り等で共有して取り組み、そして運営推進会議・管理者会議にて伝える事でアドバイスを頂きケアの向上を図っている。	毎日朝礼で職員の意見や提案を聞いている。毎月、全体会議で各ユニットの意見を共有し、一貫した考えでケアに関わっている。リーダーは日々相談などにも対応し、管理者も個別面談で対応する等、希望や要望があれば対応し働きやすい環境作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との個別面談を通し各自の現状と希望・要望を把握し、本部の担当者や代表へ報告・相談を行えるように体制が整っており、毎月の管理者会議にて発言の機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部研修の機会を設けたりホーム内での勉強会も行いながら働きながらトレーニング出来る機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や話し合いの場が法人内にて設けられているが、現在はリモート機会となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に施設の見学や面談を十分に行い困りごと・不安な事・要望を聞き取りしながらアセスメントでは本人の経歴や病気・家族他について情報収集を行いそれを事前に職員間で共有して利用者の安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様にご家族に関しても同じように見学や面談を行い不安・要望等を聞き取り、それを職員に周知してケアに活かせる様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前の面談にてその時必要な支援を見極め、医療・福祉用具・将来的な事他、希望に沿ったケアが行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が環境作りや補助をしながら掃除・家事・庭の手入れ他、本人にとって可能な事は無理のない程度に参加して頂き、共に暮らしを共にする者同士の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族へはお便りや電話にて連携を図り、面会や行事を通して集い家族間の絆を持ちながら、本人主体のケアを共に考え支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は現在コロナ感染症対策にて窓越し面会や電話での面会等、感染症対策を踏まえ工夫している。	コロナ禍の為、窓越し面会や庭越し面会、葉書、電話での取次支援で馴染みの人や場との関係が途切れない支援に努めている。個別に家族と参拝したり、訪問理美容を活用している。近隣の店舗での買物、自宅への外出・外泊など家族の協力を得ながら支援していたがコロナ禍で外出支援ができていない。電話や葉書、窓越し面会を推奨して再度の訪問をしやすいように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の個性を理解し入居者同士の関係を把握しながら座席の工夫や必要時には職員が間に入り孤立する事なく関わりがスムーズに行くように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は支援は行っていないが必要に応じてフォローし、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの直接的な希望、それが困難な場合は普段の様子観察を通して職員間で話し合い、把握に努めている。又家族からの希望があれば踏まえ、本人の話や様子から職員がくみ取りケアに活かすよう検討を行う。	思いや意向は、昼食後に声かけて聴いたり、洗濯物畳みやお盆拭きの時、夜勤帯の時に話されることが多い。困難な場合は目の表情や手招き・立ち上がり動作等から、家族と話し合い思いや意向の把握に努め、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントでの情報収集や家族からの聞き取り、そして入所後の生活でのふれあいを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子観察を日誌に残し、毎日の申し送りやカンファレンス、定期的なアセスメント等で把握した事の確認に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、日常のケアの中でのモニタリングや必要な関係者とのカンファレンスにて話し合いを持ち意見やアイデアを反映して現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人や家族の意見や要望、職員のカンファレンスやケース記録を参考に介護計画を作成し、担当者会議で方向性を確認し、現状に即した計画にしている。モニタリングは毎月、見直しは6ヶ月毎、状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日担当職員が個別のサービス記録を記入して職員間での情報共有を図っており、それをカンファレンス等で確認・話し合いを行い毎日のケアの実践や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か変化や事情が発生すれば其の都度家族からの聞き取りや職員間での話し合いを持ち、必要であれば既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・消防・交番他地域資源を把握して地域の保育園や町内会の慰問、そして安全確保などを通して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に家族の意向を聞き相談して係りつけ医を決めて定期的に受診をしている。必要な時は医療・家族と連携を図りながらその都度適切な医療を受けられるように努めている。	かかりつけ医の確認を行い受診支援している。母体医療機関の受診は月2回、職員が同行し、かかりつけ医の往診を月1回受けている。歯科の訪問診療も定期的に受けている。他科受診は基本的に家族同行である。母体医療機関と24時間ホットライン体制で対応し、主治医の指示で救急搬送等、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルや様子観察を通して何か状態変化や異変があれば職員同士で相談し連携を図りながらかかりつけ医に報告して適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は文書にて病院側に情報提供を行っている。入院中も何かあれば医療・家族と連携を図り情報共有しながら退院時も病院からの情報提供、家族との話し合いを通して関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針については説明は行っているが、重度化した場合は医療・家族と連携を図りながら利用者により良い支援が出来るように家族と話し合い方針を共有して支援に取り組んでいる。	マニュアルを基に入居契約時に延命処置の有無を含め説明をし同意書を貰っている。重度化や終末期には状態の変化がある毎に本人・家族の意向を踏まえ、かかりつけ医・看護師と連携し、安心して最後が迎えられよう看取りの体制ができている。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の急変・緊急時のマニュアルは準備されており職員に周知して情報の共有を図りながら、緊急発生の際は対応しその都度勉強会等で話し合いの機会を持ち実践力の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間2回日中・夜間の想定で消防訓練を行い消防団からの指導を頂いている。又勉強会にて全職員に避難方法等の周知を行っている。</p>	<p>年2回、昼夜間想定で消防署立会いのもと通報・避難・消火訓練を入居者参加で実施し指導を受けている。業者による設備点検もある。近隣住民の告知は回覧板や声かけし協力を得ている。防火管理者を中心に自主訓練では洪水・地震を想定し避難訓練を実施している。備蓄は水・レトルト食品・インスタントラーメン・缶詰・季節の漬物等の食品とカセットコンロ・ボンベ・防災頭巾を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日常の色々な状況の中でも介護者として感情的にならずその人を尊重し、人生の先輩という認識を大切にして誇りやプライドを損ねない対応を心掛けている。</p>	<p>年1回、マニュアルに基づいて研修会を実施している。ネット事例でグループワークで勉強会を実施し、個々人を大切に、馴れ馴れしい言葉には気をつけて対応している。入室時は挨拶と自己を名乗って声かけする。入浴や排泄時は、声のトーンに気を付け、トイレのドアはきちんと閉める等の基本を、個別に対応している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>難しい自己決定は困難ではあるが、本人の力量に合わせて思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの大まかな流れはあるが一方的な押し付けではなく一人ひとりのペースになるべく浴い、思いや希望に受け入れながら支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>衣類は本人が直接、あるいは一緒に希望を聞きながら選び、ヘアカットは希望により個別・又は訪問理容で行い、身だしなみに不備があれば介助しながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に希望を取り入れたり食事の下ごしらえや後片づけ等を出来る方にはお願いしながら一緒に出来るよう取り組んでいます。	旬の食材で調理している。歯科医の協力で嚥下機能を診断し、食形態は普通食や粗刻み等で、水分はとろみでも提供している。行事食には茶碗蒸し等、リクエストを取り入れ、誕生日は手作りケーキ、暑い日のおやつはそれぞれ好みのシェイク、ノンアルコール等を提供し食事を楽しむことができるよう工夫している。らっきょうの下ごしらえから漬け込みまで利用者と共にいった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量はチェック表にて確認しており、個別の健康状態に合わせてきざみ・ミキサー職、栄養ドリンクやゼリー等で対応して支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後各自の状態に応じて声掛け・見守り・介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して各自の排泄パターンを把握して、その時の状態をみながら誘導や介助を行い、なるべくトイレでの排泄や排泄の自立を意識して支援している。	排泄チェック表で動作や表情など、小さな情報も職員全員で共有し各自の排泄パターンを把握している。日中はトイレでの排泄支援をしている。排泄用品は各居室で管理し、それぞれの排泄状況に応じて使い分けている。便秘傾向の場合、牛乳やオリゴ糖の飲用とトイレ誘導で排便がみられ、褥瘡軽減、尿路感染防止に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事では野菜を多めにしたり豆乳他水分量の調整で工夫しており、体操や軽い歩行訓練等で対応しているが必要があれば便秘薬も利用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に2回を目安に入浴の支援を行っている。基本的には曜日は決まってはいるが、個々の排泄その他の状況や希望に応じて支援を行っている。	週2回午前中の中の入浴を基本に、希望や排泄状況に応じて、順番など変更している。全員浴槽に入るが、シャワーチェアと足湯での支援もある。入浴剤やゆず湯・菖蒲湯でも楽しめる支援を行っている。入浴を拒む利用者には日時・順番・職員の交替などを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	各自の生活習慣を尊重し、又そ の日の体調や気分に応じて支援 を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を利用してお り薬剤師からの定期的な指導と 何かあれば相談出来る体制の 下、薬を理解し職員間で情報共 有しながら症状の変化の確認に 努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活暦 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	一人ひとりの力量や状態、そし て意向に合わせて食事の下ごし らえや後片づけ、掃除や洗濯物の 処理等の役割を持ったり、ドラ イブ、生け花、テレビ鑑賞など 楽しみを持てるよう支援を行っ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している	ホームの行事での外出やドライ ブ以外では、毎日の散歩やドラ イブ、買い物が現在はコロナ感 染症対策で自粛である。個別な 希望があれば状況に応じて行 うが現在は自粛して頂いてます。	コロナ禍で外出支援は自粛中 であるが、車椅子でホーム周 辺の散歩や木市見物、定期的な 医療機関受診の帰宅途中、紫 陽花やコスモスの花見物をし ている。近隣の神社へ初詣に出 かけたり、家族の協力でお寺 参りに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームが小口現金を預かり必要な物や希望に応じて購入している。又一人ひとりの力や希望に応じて家族と相談して金額を把握しながら所持して頂く場合もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望に応じてその都度電話出来るよう支援しており、手紙はその時の状況で必要であれば行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や洗面台にはなるべく清潔にして季節の花を用意したりホーム内には月毎の展示物を利用者と一緒に作成して展示するなど季節感を取り入れている。又テーブルの自席や室内灯には状態に合わせて配慮をしている。</p>	<p>玄関に季節の花が活けられ、リビングに空気清浄機や温湿度計を設置し、カーテンやエアコンで快適な環境を作っている。廊下やホールの壁にパッチワークや鯉のぼり等、季節の貼り絵を作成し展示する等、季節感を取り入れている。テレビやソファ・畳スペースがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳の間で自由に集ったり、リビングソファでは外を眺めたりおしゃべりしたり新聞等、自由に過ごせるように工夫している。又洗濯物の処理なども気の合った利用者同士で行ったりしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望や家族との相談の上、使い慣れた馴染のある家具や好みの物、写真など居室にはおいて居心地よく生活出来るよう支援している。</p>	<p>居室は電動ベット・エアコン・防炎カーテンがあり、寝具類はレンタルで随時交換している。仏壇・写真・ぬいぐるみ・作品など、家族や本人が話し合い、好みの物や使い慣れたものが持ち込まれている。ハンガーに衣服やバッグ・帽子が掛けられ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内の動線には手すりが設置されており、トイレ・浴室のドアには大きめの表示、そして居室には名札や名前のプレートを張るなど安全に分かりやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない